

徳島市新ホール
建設候補地選定についての
意見書(案)

平成29年5月11日
徳島市新ホール建設候補地検討会議

徳島市新ホール建設候補地選定についての意見書（案）

はじめに

文化センターの利用中止以来、徳島市内には、1,000席以上規模の公共ホールのない状況が続いており、市民の鑑賞機会や文化活動など、文化の振興に大きな影響を及ぼしています。

このようなことから、徳島市では、平成28年11月の徳島市音楽・芸術ホール整備推進有識者会議からの提言を踏まえ、新ホールの平成35年度の開館を目指し、建設候補地の選定を進めています。

平成29年3月29日に設置された徳島市新ホール建設候補地検討会議では、建設候補地の選定のための検討において、徳島市が目指す新ホールの基本理念「市民の芸術文化の創造拠点」を踏まえて以下の3点を条件としました。

○ 「市民の芸術文化の創造拠点」・「県都のホール」として

県都にふさわしいホール施設機能とアクセス利便性の確保、ホールを拠点とした地域活性化の相乗効果を目指すこと。

○ 整備スケジュールについて

徳島市内に1,000席以上規模のホールがない現状を踏まえ、平成35年度開館を目標とした整備スケジュールが実現可能であること。

○ 財政負担・コストについて

ホールによる文化、教育、福祉、経済など様々な分野における効果を踏まえ、財政的に過度の負担とならない計画が可能であること。

そして、徳島市から示された3箇所の候補地を比較検討するため、①施設条件、②土地条件、③交通条件、④周辺条件、⑤整備コスト・期間 の5つの視点を設けて、各候補地の得失、課題を整理しました。

これらの検討結果に基づき、新ホール建設候補地の選定についての意見を申し述べます。

意見

【前提条件における検討について】

1 「市民の芸術文化の創造拠点」・「県都のホール」として

新ホールには、優れた芸術文化を鑑賞する場として、多くの市民が日常的に集まり、文化創造活動を行う施設として、大ホール、小ホール、創造支援ゾーン（活動室、スタジオ、リハーサル室、交流サロンなど）を備え、「市民の芸術文化の創造拠点」としての役割を果たすとともに、周辺地域への様々な効果が期待されるという視点から検討しました。

2 整備スケジュールについて

新ホールの早期開館を目指すため、平成35年度の開館目標に対して、手続きの難易度やリスクの可能性について検証しました。

3 財政負担・コストについて

ホールによる文化、教育、福祉、経済など様々な分野における効果を踏まえ、財政的に過度の負担とならない計画が可能であるかの視点から検討しました。

【各候補地についての意見】

文化センター敷地

1 「市民の芸術文化の創造拠点」・「県都のホール」として

幹線道路に面するという立地条件からシンボル性を演出しやすい場所であると思われます。

また、JR徳島駅からは比較的至近距離にあり徒歩でのアクセスが可能ですが、鉄道によりバリアフリー経路が確保できていない課題があります。

周辺には、徳島中央公園をはじめ公共施設が立地していることから、ホール整備公共エリアとして周辺施設との連携、さらに、将来的には周辺施設の再整備を踏まえたまちづくりの可能性についても検討することが期待されます。

ただし、敷地の形状や面積上の制約があること、北側の徳島中央公園（第一種住居地域）への日影規制への対応など、ホール施設の配置設計には建築上の検討が必要となります。

2 整備スケジュールについて

文化センター敷地は、市有地以外に県有地が含まれていることから、整備着工以前に、境界確定や土地利用の協議を行うことが必要です。これらの手続きが早期に完了すれば、平成35年度の開館までの施設整備完了に向けてのリスクは比較的小さいと思われま

3 財政負担・コストについて

ホール施設の整備費用については、敷地面積と形状により、創造支援ゾーンなど一部主要機能を地下などに配置する必要があること、さらに、駐車場やバリアフリー経路の確保も必要であることから、建築コストの増加要因があります。このため、周辺の公共施設との共存も視野に入れた段階的な施設計画を考えるなど、長期的な視点における整備についても検討するべきであると考えられます。

旧動物園跡地

1 「市民の芸術文化の創造拠点」・「県都のホール」として

旧動物園跡地は、徳島駅からやや離れた所にあることから、中心市街地のまちづくりへの直接的な寄与度は低いと考えられます。徳島市が進めるひょうたん島川の駅ネットワーク構想における川の駅（候補地）との連携等、文化と水辺の交流エリアとして位置づけた整備の方向を目指すことが望まれます。

3候補地の中では敷地面積が最も広く、ホールの施設機能をゆとりを持って整備することが可能となります。

ただし、利用者のアクセス性確保のため駐車場の整備の必要性があること、それに伴って周辺道路の渋滞や居住環境への影響が生じることが想定され、この課題の解決のため十分な対策を考える必要があります。

2 整備スケジュールについて

この候補地は、都市計画法上の手続き（用途地域の変更や用途規制の例外許可、都市計画公園の変更）に一定の期間を要するとともに、周辺道路の拡張や交通規制、渋滞対策への対応が必要となります。

周辺に一般住宅が多く、規制緩和等の手続きでは、ホール整備により直接的な影響を受ける地区住民が多く存在することから、慎重な対応が必要不可欠であり、手続きが長期化する可能性もあります。

3 財政負担・コストについて

敷地面積が広くゆとりを持った設計が可能なことから、他の候補地と同程度のホールを建設する場合の建築コストは比較的低廉となることが予想されます。ただし、駐車場の整備費用に加えて、周辺道路の整備など、周辺環境への影響の緩和施策に関する費用が必要となることも想定されます。

徳島駅西側駐車場

1 「市民の芸術文化の創造拠点」・「県都のホール」として

徳島駅西側駐車場は、市内・広域交通ネットワークの要であるJR徳島駅ターミナルビルと隣接し、徳島市の中心市街地の核となる鉄道駅と連結したホールを整備できる点で、市内に加え、周辺地域からも利用者の利便性が最も高く、その結果、催事のみならず日常的な文化交流拠点として、周辺地域の商業やビジネスを活性化させ、さらに、徳島市における公共交通利用の促進や中心市街地の活性化に向けた多様な政策に寄与することが期待できる点で優れています。

特に、ホールでの鑑賞の際に、開演前の待ち合わせや終演後の余韻を楽しむことができる周辺環境も重要な要素であるという点では、候補地の中で唯一条件を満たす場所であると考えられます。

ただし、敷地の形状や面積上の制約、周辺道路への影響、北側の徳島中央公園（第一種住居地域）への日影規制への対応などを踏まえたホール施設の配置設計には建築上の検討が必要となります。

これらの課題に対応するため、隣接する施設と連携・協働した官民連携による施設整備の可能性についても検討するべきであると考えます。

2 整備スケジュールについて

この候補地は、土地所有者との協議や費用負担など、事業推進上の不確定要素があります。しかし、立地条件として魅力の高い場所であることから、建設予定地として選定する場合には、土地所有者との合意形成や事業費の検討を早急に進め、事業の実現性を早期に見極めていくことが必要であると考えます。

3 財政負担・コストについて

土地に関する必要経費については、JR四国をはじめ土地所有者との取得または賃

借するか協議がなされていない段階ですが、用地の取得費用に加えて、既存施設の撤去移転費用等の考慮が必要であり、他の候補地と比較して、総事業費としては高価となります。しかしながら、上述の中心市街地への波及効果を踏まえて、総合的に検討するべきであると考えます。

終わりに

新ホール建設候補地検討会議では、「文化センター敷地」、「旧動物園跡地」、「徳島駅西側駐車場」の3つの候補地について、新ホールが、基本理念である「市民の芸術文化の創造拠点」としての役割を果たすことのできる場所であること、早期の開館プロセスが見込めること、そして、過度の財政負担を伴わないこと、これらの前提条件において、複数の視点から検討を行ってきました。

提案された3つの候補地には、それぞれメリット、デメリットがありますが、新ホールを単なるハコモノとして整備するのではなく、徳島市まちづくり総合ビジョンの将来像である「笑顔みちる水都とくしま」の実現に向けて、「市民の芸術文化の創造拠点」が徳島市の「まち」「ひと」「もの」にもたらす様々な相乗効果を念頭に、県都徳島市のホールとして、ふさわしい建設場所を選定するべきと考えます。

特に、ホールは、子供たちから高齢者まで、障がいのある人もない人も、また、個人を取り巻く社会的状況等にかかわらず、文化を通じて社会参加の機会を開く社会包摂の機能を有する基盤施設として大きな役割を担っています。このようなことから、将来を担う子供たちが一流の文化に親しみ、文化活動ができる施設として、また、高齢者や障がいのある人が気軽に来館し、芸術文化に親しむことのできる施設として、市内のみならず、周辺地域からも人々が集える施設として、交通アクセスの利便性や、集いのエリアとして周辺施設が充実していることは、非常に重要であると考えます。

また、建築設計、早期整備、整備費用増加に関わる課題については、その解決の見通しについて十分検討する必要があります。特に、現段階では不確定な要素も多くあることから、建設予定地として整備の検討を進める場合には、一定の期限を設けて、不確定要素である部分の必要手続きを進めるとともに、財政負担の軽減の可能性、事業の実現性について十分な検討を進めることが必要と考えます。

徳島市が新ホールの建設候補地を選定するにあたっては、以上のことを踏まえて、総合的に判断するべきであると考えます。そして、その判断結果を、わかりやすく市民に説明されることを希望します。